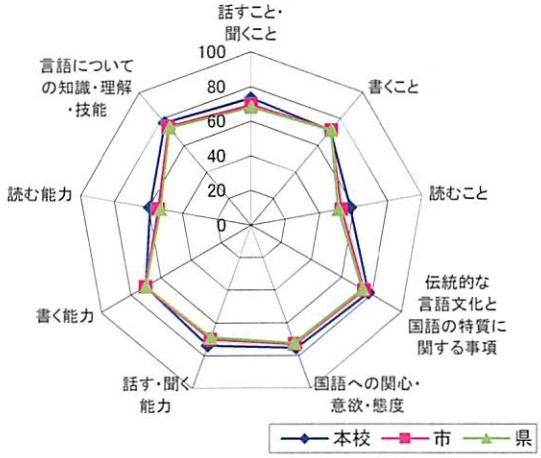
宇都宮市立瑞穂野中学校 第２学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと･聞くこと	73.5	69.6	68.2
	書くこと	71.1	71.7	71.5
	読むこと	57.9	52.6	51.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.8	74.8	73.7
観点	国語への関心･意欲･態度	75.1	72.8	72.1
	話す･聞く能力	73.6	69.9	68.7
	書く能力	70.3	70.7	70.3
	読む能力	59.2	54.7	53.1
	言語についての知識･理解･技能	77.3	74.5	73.5



★指導の工夫と改善

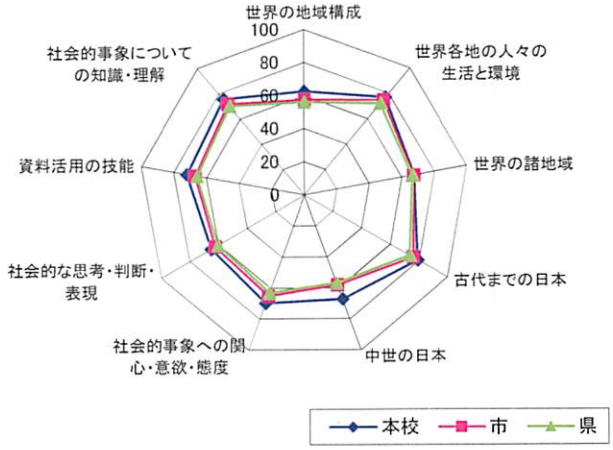
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	県市の平均より4%上回っている。 ○話し手の工夫点や、話題を捉えて聞き取ることについての問題に関しては、正答率は高い。 ●話の構成を工夫して相手にわかりやすく伝える設問については、正答率が47%と低くなっている。	授業の中で言語活動を多く取り入れ、自分の意見を話したり、他人の意見を聞いたりする活動を行う。 わかりやすい話の構成について意識させるワークシートの工夫や、読み取りの授業の中の、構成についての学習を、話すことに関連させていく。 聞く姿勢についても指導を行い、聞き取りテストを行うことで、聞く力の育成を目指す。
書くこと	県市の平均とほぼ同じである。 ○読み取った内容を明確にして書く問題に関しては正答率は県平均より6%高い。 ●段落構成や、考えを明確にして記述式で答える問題は、正答率が県平均より低い。	段落構成を意識させるワークシートの工夫や、読み取りの授業の中の構成を捉える学習を、書くことに関連させていく。 書くことが苦手な生徒には短い文章から慣れさせ、徐々に長文がしっかりと書けるようになることを目指す。 書く力の基礎となる語彙力を充実させるため、授業中に辞書を引く活動や、語句を使った単文作りを継続して行っていく。
読むこと	県市の平均より5%以上上回っている。 ○読むことに関する、内容や心情を捉える問題に関しては、ほぼすべての質問で正答率が県より高い。特に文章の展開を捉えて内容を理解する質問は、県平均より13%高い。	論理的に内容を捉える力を高めるために、段落の役割など、文の構成に注目させる。また、筆者の意見や登場人物の心情などを捉える際に、根拠を挙げて答えられるようにする。 段落構成の学習を、話すことや書くことに関連させていく。 多くの数、種類の文章に触れさせるため、読書の習慣を定着させる。良書を読ませるためにも、選書の仕方についても指導を行う。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	市の平均より3%上回っている。 ○漢字の読み書きに関する問題ついては、ほとんどの問題で県の平均を上回っている。文節の関係に関する問題の正答率は県平均よりも高い。 ●歴史的仮名遣いを直す問題の正答率が、県平均より8%低い。	授業の中で漢字テストを行ったり、新出漢字や語句等を辞書を活用して調べたりする学習を継続して行っていく。 古典分野においては授業の際に、繰り返し音読を行い、古文の読み方に慣れ親しみ、歴史的仮名遣いを直すなどの基本的な内容について知識を定着させる。 文法に関しては復習の機会を意図的に設け、知識の定着を図る。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第２学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	62.6	57.6	56.0
	世界各地の人々の生活と環境	76.8	74.6	71.9
	世界の諸地域	67.6	67.0	66.3
	古代までの日本	79.0	75.7	73.3
	中世の日本	67.2	57.9	56.7
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	69.7	65.0	63.0
	社会的な思考・判断・表現	65.1	62.5	60.5
	資料活用の技能	72.0	67.2	65.9
	社会的事象についての知識・理解	75.6	71.8	70.1



★指導の工夫と改善

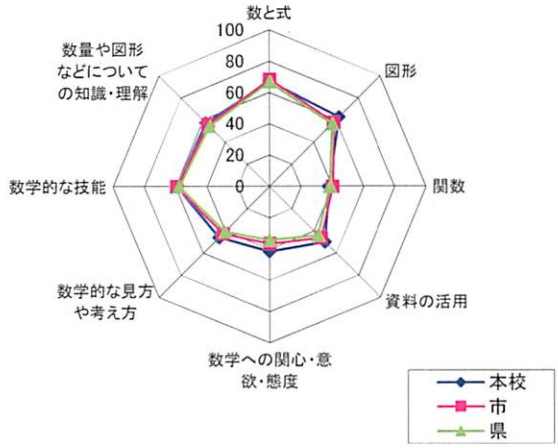
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○本校は、市と比較して5.0ポイント、県と比較して6.6ポイント上回っている。 ●緯線と経線が直角に交わる地図について、その特色を把握する問題では、53.1%と正答率が低い。	・地球儀・地図の効果的な利用を通して、地域区分、大陸、州、緯度・経度、方位等についての指導を充実させる。諸資料を扱う際には、ICT機器（デジタル教科書・拡大投影器等）の効果的な有効活用に留意をする。
世界各地の人々の生活と環境	○本校は、市と比較して2.2ポイント、県と比較して4.9ポイント上回っている。	・自然環境（気候）・（宗教）分布等と人々の生活の様子との関連性に注目をさせ、各地域の特色を、明確に把握させる。資料読解の際には、分布や変化・推移に注目をさせ、読み取りの視点を明示した上で、考察させる。
世界の諸地域	○本校は、市と比較して0.6ポイント、県と比較して1.3ポイント上回っている。 ●ヨーロッパ州の農業の特色について、複数の資料をもとに考察する問題では、44.9%と正答率が低い。	・諸地域ごとの特色を、顕著に象徴する諸資料（雨温図・断面図等）を通して、自然（地形・気候分布）や産業（農業・工業等）といった、地域の特色を把握する学習を徹底する。諸地域を理解する上で、農産物・工業製品の生産・輸出等、地域の特色を象徴する資料を、効果的に提示することにより、他地域との共通性や相違性を認識させる。
古代までの日本	○本校は、市と比較して3.3ポイント、県と比較して5.7ポイント上回っている。	・縄文時代から平安時代までの各時代の特色を、他の時代との比較を通して、考察させる。その際、政治・文化・外交等の各時代を象徴する諸事象に注目させる。諸事象の更なる定着のために、学習課題の明示や小単元ごとの振り返り活動の充実、定期テストの事後の有効活用等の方策を徹底する。
中世の日本	○本校は、市と比較して9.3ポイント、県と比較して10.5ポイント上回っている。 ●日明貿易の様子について、複数の資料をもとに考察し、その特色を説明する問題では、50.5%と正答率が低い。	・鎌倉・室町時代の特色を、複数の資料を通して、諸事象間の関連に注目をさせる。表層的な理解にとどまらずに、諸事象間の相関、因果関係に注目をさせ、理解を深化させる。また、社会的思考・判断・表現を育む方策として、言語活動（話し合い活動・討論等）の充実を推進する。言語表現の他にも、文章表現での取組も継続する。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第２学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	67.3	68.4	66.8
	図形	62.7	57.8	56.5
	関数	37.7	40.1	38.5
	資料の活用	49.9	46.3	43.8
観点	数学への関心・意欲・態度	41.4	36.4	34.1
	数学的な見方や考え方	45.8	42.5	40.5
	数学的な技能	59.2	59.6	57.9
	数量や図形などについての知識・理解	57.4	56.0	54.3



★指導の工夫と改善

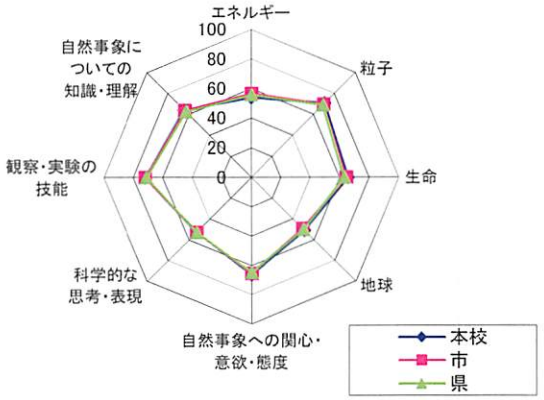
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○文字を使った式で数量を表すこと、数量関係を等式で表すこと、文章題を1次方程式や比例式を用いて解くことができるは県の正答率を5ポイント以上上回った。 ●1次方程式を解くこと、絶対値の理解は県の正答率を5ポイント以上下回った。	・基本の計算や重要語句の意味の理解につまずきが見られる生徒に対しては、小テストの実施やそのやり直しをさせるなどを繰り返し、反復させることで生徒の理解が深まるような指導をしていく。
図形	○三角形を回転移動した際、回転の角の大きさについて、垂直二等分線の作図を使って三角形の面積を二等分すること、回転体についての理解は県の正答率を5ポイント以上上回った。	・図形の性質についての理解が不十分な生徒に対しては2学年の論証の授業の前に、もう一度それぞれの図形の性質などをフラッシュカードなどを用いて確認する。また、自ら図形の性質などに気づくことができるような授業展開を考える。
関数	○与えられた式から2つの数量関係が比例であることを　判断することは県の正答率より6ポイント以上上回った。 ●比例の式から比例のグラフをかくことは県の正答率を9ポイント近く下回った。	・グラフをかく作業を苦手とする生徒が多いため、授業内で日常生活に関連した問題を取り上げ、生徒の興味や関心を引きつけるとともに、自ら関数の関係性を見い出すことができるように授業展開を工夫する。
資料の活用	○度数分布表から階級の相対度数を求めることは7ポイント県の正答率を上回った。また度数折れ線の特徴を読み取り、説明すべきことがらについて数学的に説明することは県の正答率より13ポイント以上、上回った。	・重要語句の意味は理解ができてきているので、小テストなどで学習内容の復習を授業で取り上げるなどし、より生徒の理解が深まるような指導をしていく。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第２学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	54.0	56.6	55.8
	粒子	70.7	69.6	69.0
	生命	65.7	64.4	63.0
	地球	51.0	49.2	50.2
観点	自然事象への関心・意欲・態度	66.1	65.2	64.7
	科学的な思考・表現	52.5	52.8	52.8
	観察・実験の技能	71.9	72.0	71.2
	自然事象についての知識・理解	64.4	63.7	62.7



★指導の工夫と改善

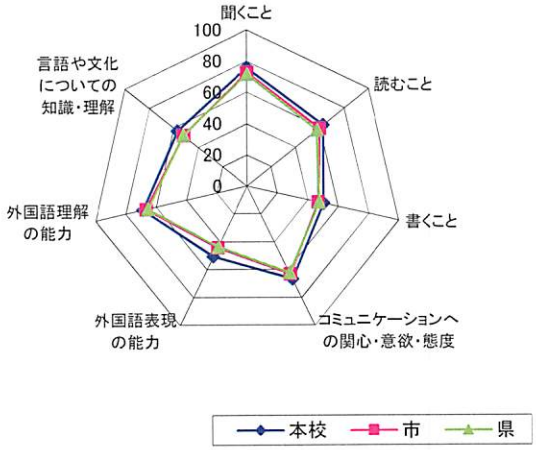
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	●平均正答率は県より1.8ポイント、市より2.6ポイント下回っている。 ○音の高さを変える方法を理解することができる。 ●力の表し方を理解できていない生徒多い。 ●音の性質を正しく理解できない生徒がいる。	・理科の「力」の定義は、日常生活の概念と異なる点がある。力の表し方については、力の3要素の定着が図れるよう、練習問題に取り組ませたい。 ・「音」の性質について、理解が十分でない生徒がいるので実験をもとに確認させたい。
粒子	○県より1.7ポイント、市より1.1ポイント上回っている。 ○気体発生の方法や性質を調べる実験についてはよく理解できている。 ○グラフの読み取りや濃度の計算についても理解できている。	・実験観察から、気体を予想するような思考力・判断力・表現力を身に付けさせたい。 ・グラフから規則性、法則性を見いだすことができるようにさせたい。
生命	○県より2.7ポイント、市より1.3ポイント上回っている。 ○植物の分類の仕方をよく理解している。 ○光合成の仕組みについて、実験を通して説明することができる。	・比較的関心の高い単元で、意欲的に学習することができていると思われる。 ・実験結果から、光合成の仕組みや必要な材料が何かなど、思考力・判断力・表現力を身に付けさせたい。
地球	○本年度は全体として、県、市の平均とほぼ同程度である。 ○断層のでき方、地層の観察方法について正しく理解できている。 ●岩石の特徴から、火山の形について推測することができない生徒がいる。	・岩石の特徴から、地層ができた時代を類推したり、地層が堆積した当時の環境を類推することができるよう話し合い活動やグループ活動を取り入れたい。 ・わかっていることを図や文章で伝えるコミュニケーション能力を向上させたい。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第２学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	75.9	72.8	71.8
	読むこと	62.4	59.4	57.5
	書くこと	50.2	46.6	47.3
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	66.6	63.0	62.2
	外国語表現の能力	50.6	44.2	43.6
	外国語理解の能力	68.6	66.8	65.4
	言語や文化についての知識・理解	57.0	52.3	52.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○平均正答率は市・県とも5%以上上回っている。 ○対話の内容を聞き取り、適切に応答することや英文の要点を正確に聞き取る問題においては、県平均に対し、5%以上の差で上回っている。	・授業の最初に行うウォームアップにおいては、生徒同士や生徒と教師間でのやりとりを多く取り入れ、即興で応答できるような活動を継続して行う。 ・教科の本文読解においても、内容の質問を英語で聞き取り、正確に答えられる活動を取り入れる。 ・ALTとのインタビューテストを年に4回行い、ネイティブの英語の発音に慣れ親しみ、自然な会話でやりとりできる活動を継続する。
読むこと	○平均正答率は市・県とも5%以上上回っている。 ○疑問詞を用いた疑問文の語形や語法を問う問題の正答率は県平均に対して10%以上上回っている。	・対話の流れと資料の情報や条件をもとに、適切なものを選ぶ問題は市や県の平均正答率を上回っているが、苦手意識をもっている生徒が多く見られる。今後も正確な内容の理解を求めるような発問を意識して行い、考えを深めさせる活動を行う。
書くこと	○平均正答率は市・県とも3%以上上回っている。 ○1年次で習った命令文や現在進行形、一般動詞の過去形の疑問文などの英文を正しい語順で書く問題の平均正答率は市・県とも10%以上上回っている。 ●季節(season)や書く(write)などの簡単な単語を書く問題が県の平均正答率より10%以上下回っている。	・どの単元においても、書く活動を必ず取り入れ、日頃からまとまりのある英文を書く訓練をしていくことで、英語で書くことに対する苦手意識を今後も継続して行う。 ・簡単な日常会話を実際に英語で書いてみながら、自己表現の能力を養う。 ・単元末テストを行う際に必ず単語テストも行い、基礎的な学力の定着を図る。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第２学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「家で学校の宿題をしている」の回答が県、市より8ポイント以上高く、「家で学校の授業の予習をしている」「家で学校の授業の復習をしている」の肯定的な回答が市を5ポイント、県を10ポイント近く上回っており、家庭学習の習慣は定着しつつあると考えられる。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「勉強していて不思議だな、なぜだろうと感じることがある」の回答では前者が市より4,4ポイント県より10ポイント高く、後者では市より9,4ポイント県より15,5ポイント高い。これは学習に対して主体的に取り組んでいることの一つの証であり、好ましい感情であると思われる。

○「学習して身につけたことは将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の回答では、はいと答えた生徒が76,2%で市を6,1ポイント、県を18ポイント以上上回っており学習の意識向上に役立っていると思われる。

●「学校の授業時間以外にふだん、1日あたりどれくらいの時間、勉強していますか」の回答では3時間以上が市や県より4,5ポイント低いのを始め、30分以上1時間より少ないが4～5ポイント多いなど、全般的に学習時間は短いようである。
また、「学校の授業以外に、ふだん1日あたりどのくらいの時間読書をしますか」の回答では10分以上30分未満が43,6ポイントで一番多く、10分より少ない、読書をまったくしないと合わせると76,3%の生徒が該当する。これは市の65,2ポイント県の61.3ポイントを大きく上回り、読解力の低下につながる要因になり得るかもしれない。

●「学習の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の回答では、肯定的な回答が59,4%で市の71,3%県の72,2%を10ポイント以上下回っており、教える側の今後の課題と思われる。余裕を持った授業構成と生徒自身の振り返り活動を意識して行うことが肝要である。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自主学習ノートの作成 （家庭学習の充実と継続をめざして）	毎日、大学ノート1ページ分の学習を家でやってくる。	質問2の「家で学校の宿題をしている」「家で学校の授業の予習をしている」「家で学校の授業の復習をしている」が県の肯定割合より9～10ポイント上回っている

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「授業の中で、目標が示されている」の肯定割合が高いが「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」の肯定割合が10ポイント以上低い。	授業の振り返りの活動を通し、その日の目標が理解され、定着されるよう工夫する。	授業の最初に目標を示し、最後に振り返りを行うパターンを確立し実践していく。